

青い空

つうしん Blue Sky

〒780-8040 高知県高知市神田462番地7
TEL/FAX : 088-803-4100
E-mail : npo-aosora@snow.ocn.ne.jp
URL : <http://blue-sky-kochi.com/>

事故などの後遺症で「高次脳機能障害」を抱えている方、その家族の方、一人で悩んでいませんか？
同じような体験をした仲間が集まり、語り合きましょう。
「安心して集まる場が欲しい」「少しの時間だけかもしれないけれど一息つこう」
そんな思いからスタートしました。



日本脳外傷友の会第16回全国大会2016in高知



日時：2016年10月7日（金）13:00-17:00
○開会行事・交流会
2016年10月8日（土）9:00-18:15
○記念式典・全国大会

場所：高知市文化プラザかるぼーと（全国大会）
ザクランパレス新設高知（交流会）

主催：日本脳外傷友の会第16回全国大会実行委員会
NPO法人日本脳外傷友の会
事業主管：特別脳外傷友の会高知 青い空

あつという間の2日間でしたが、無事に「日本脳外傷友の会 第16回全国大会in高知」および「交流会」、「関連行事」が無事に終了いたしました。

本大会のテーマは「見えない障害？」「見てない障害？」～もっかい考え直さんかえ～とさせていただきます。日ごろ、高次脳機能障害支援に取り組んでいる中で、「高次脳機能障害は見えない障害」という言葉や「見えない障害だから難しい」という言葉をよく耳にし、実際に私たちも高次脳機能障害支援の難しさを痛感しています。このテーマの背景には、なんとか当事者にかかわる全ての人たちに、高次脳機能障害を、もう一度、見ようとしてみましょう！理解しようとしてみましょう！という気持ちが込められています。

そういった意味もふまえ、今回の大会のチラシや大会誌の表紙は、スイスの画家のポール・クレーという方の絵を使わせて頂きました。全体的にモザイクがかかったような絵で、真ん中に明るい色彩、周辺が暗い感じの色彩で描かれているこの絵のタイトルは「花ひいて」というタイトルです。それを知った時に、真ん中の

明るい色彩の部分が花で、さらに、それを引き立たせてくれているのは周辺の 暗い色彩の部分であるということが分かり、見えない部分を見ることで、向けていなかった部分に注意を注意をむけることで、この絵の全体の見え方が変わるのが分かるかと思えます。高次脳機能障害支援においても、見えない部分を、たくさんの人が見ようとしてくれることができれば、高次脳機能障害支援のあり方全体の見え方を変えていけるのではないかと。そんなメッセージ性が込められていました。



大会プログラムの内容は、開会記念式典の後、国土交通省の黒岩勉様、文部科学省の萩庭圭子様、国立職業リハビリテーションセンターの野口勝則様より、ガイダンス講演として、高次脳機能障害に対する国の支援の現状についてお話し頂きました。

その後、基調講演として、滋賀県でご活躍されている社会福祉法人グロー（GLOW）の北岡賢剛様より、滋賀県における高次脳機能障害支援の現状をふまえて、今後の高次脳機能障害支援をどうしていくべきかという点を含めて濃密なお話を聴くことができました。

午後からは、「当事者の生きる知恵—高次脳機能障害から学んだこと—」と題し、高次脳機能障害の当事者であり医師である山田規敏子先生と高次脳機能障害支援を専門とする橋本圭司先生に、お互いの経験を通じての本音の対談を繰り広げて頂きました。

そして大会終盤には、当事者・家族に加え様々な分野の支援者の方々にご登壇いただき、南国中央病院の宮本寛先生の司会のもと「～そのまんまでかまんちや～」と題したシンポジウムが行われました。

どの講演も大変考えさせられる内容で、聴講者それぞれの立場で、高次脳機能障害支援をもう一度再考する機会になったのではないかと思います。



また、大会前日の関連行事であった高次脳機能障害支援コーディネーター研修会と子どもを含む高次脳機能障害家族部会も無事に終了し、全国交流会では、当事者・家族、支援者同士が全国の皆様と交流を深める事ができました。たくさんの催し物が行われ、女子会の皆様も大活躍でした。

なにかと至らない点はあったかと思いますが、本大会はたくさんの方の支えの下、無事に終了することができました。快くお引き受けくださった登壇者の皆様、ご協力くださった関係者の皆様、実行委員会、スタッフの皆様、ご協力いただいた全ての方に深謝いたします。

現在の高次脳機能障害支援はまだ課題が山積していますが、これからも前向きに力を合せて活動していきましょう。



10月16日 月例会

当事者5名、家族6名、支援者3名の参加でした。

まず理事長から全国大会の報告があり、その後、富山の家族会から情報提供いただいた、「北日本放送 / 金曜ジャーナル / 社会復帰の壁 高次脳機能障害の子どもたち / 2016.10.7放送」を全員で視聴しました。現在の高次脳機能障害支援の課題の1つでもある子どもの支援についても皆で考える事ができました。

近況報告では、

当事者Aさん：最近では自分の目標として「計画的にお金を遣う」という事を掲げている。

当事者Bさん：仕事はまずまずうまくいっている。

当事者Cさん：初めて全国大会に参加し、全国の当事者の方と交流できたことが大変よかった。生きる糧になる。

当事者Dさん：全国大会では同じ障害を持つ方に「また会おう」と言ってもらえた。出会いがありがたかった。本は苦手だけど、小林春彦さんの「18歳のビッグバン」を購入した。頑張ってみようと思っている。日々の仕事では最近嬉しいことがあって、いつも挨拶をしてくれないおばさんが心を開いてくれたのか、「おはよう」と言ってくれた。こういう出来事に喜びを感じて仕事を頑張っている。

当事者Eさん：全国大会は1ヵ月くらい前のことのように感じる。また来年も行きたい。以前住んでいた幕張に帰ろうかと考え始めている・・・。

家族Aさん：全国交流会では埼玉や岐阜の方と同じテーブルとなり、いろいろな話ができてよかった。岐阜大会も参加したい。

家族Bさん：全国大会は示唆に富んでおり、全国交流会の女子会での活動も含めて濃密な時間だった。全国大会の期間中、息子が家に帰ってきており、少し息抜きができて安心して県外に戻った様子。

家族Cさん：息子に仕事はどうかと尋ねると、約1年間休職していたため有給休暇が無く、病院へ通うのがしんどいとのこと。自分から全国大会に参加しようという気になっただけでも大したもの。

家族Dさん：全国大会や交流会は普段と違った環境で大変よかった。

家族Eさん：学園祭と重なって全国大会には参加できなかった。OTを目指して専門学校に通っている。先日のテストの成績はクラスで6位だったが、自分の中では今一つ納得できていない。ゆくゆくは皆さんのお役に立てるよう頑張る。

家族Fさん：7月から家族会に参加している。分からない事や不安な事がいっぱいだったが、家族会や全国大会を通じて元気をもらっている。

今回の月例会は全国大会に関する話題が多かった。大会で講演された北岡賢剛様の発言を受けて、「高次脳機能障害に対する制度の確立は強く求める」、「当事者・家族もできることを地道にやっとう」、「そもそも高次脳機能障害という言葉が難し過ぎるから一般の方に抵抗があるのではないか」、「子どもの高次脳機能障害特有の課題である教育に関しても考えていきたい」などの声が多く聞かれた。



日本脳外傷友の会第16回全国大会in高知アピール

今年、リオデジャネイロで開催されたオリンピック、パラリンピックでは日本選手が大活躍をし、私たちに笑顔と元気をくれました。社会の一員として生活している高次脳機能障害者の人たちもリオオリンピック、パラリンピックで活躍された選手の皆さんから目標に向かう力と姿勢をもらったことでしょう。

しかし、4月に発生した熊本地震、各地を襲う大雨による河川の氾濫や土砂災害など、障害者にとって災害に遭った時の支援の在り方など不安材料があるのも確かです。また、7月に起きた神奈川県相模原市の津久井やまゆり園の凄惨な事件、「障害者なんかいなくなればいい」このように理不尽な考えを持つ人がいる、そのような社会であっていいのでしょうか。

今大会のテーマでもある「見えない障害？」「見てない障害？」～**もっかい考え直さんかえ**～を原点とし、以下のことをアピールします。

◎今年4月に「障害者差別解消法」が施行されたとは言え、今日においても障害者に対する偏見、差別は社会の中に厳然として残っており、とりわけ「見えにくい障害」と言われる高次脳機能障害をもつ人々への誤解、偏見は存在しています。私たちは、原点に立ち返り、社会への啓発活動を積極的に継続していきます。

◎高次脳機能障害者（児）の地域生活を支えるための障害特性に対応できる知識及び技術を持つ人材育成、医療と福祉の連携、友の会と専門機関、教育機関との連携など多職種との連携をさらに強めていきます。

◎平成30年度からの障害者基本法に基づく障害者福祉計画、障害者総合支援法に基づく障害福祉計画において高次脳機能障害者支援が明確に位置付けられるよう働きかけるとともに、「専門的・広域的な相談支援を担う高次脳機能障害支援センター」の恒久的設置が保障されるよう制度・政策の整備を要求していきます。

◎高次脳機能障害者（児）が自身の力を信じ、本人活動、ピア・サポート、当事者ネットワークなどの促進を図り、一人ひとりの生活力を向上していくことを援助していきます。

「人の世に、道は一つと言うことはない。道は百も千も万もある」坂本龍馬の言葉のように高次脳機能障害者への支援は一つではありません。

私たちは各地の当事者団体、当事者、家族が望む施策の実現を目指し、手を携え一丸となって活動を展開していきます。

平成28年10月8日

日本脳外傷友の会第16回全国大会in高知参加者一同



当事者・家族の会 ご案内

月例会ご案内 日時：11月20日（日） 10時～13時（毎月第3日曜日）
 場所：青い空
 連絡・相談窓口：NPO法人 脳外傷友の会高知 青い空
 就労継続支援B型事業所 青い空(平日9:30～17:00)
 〒780-8040 高知市神田462-7
 Tel：088-803-4100
 青い空携帯：090-9450-2990
 E-mail：npo-aoisora@snow.ocn.ne.jp
 URL：<http://blue-sky-kochi.com/>
 参加費：無料

女子会ご案内 日時：11月12日（土） 10時～
 ※毎月第2土曜日予定（日程等変更有。問合せを。）
 場所：NPO法人 脳外傷友の会高知 青い空
 （高知市神田462-7 TEL：088-803-4100）
 お問い合わせ：090-3186-6701（和田さん携帯）
 参加費：無料

つどいご案内 日時：11月24日（土） 10時～12時
 ※奇数月第4土曜日開催予定 確認をお願いします。
 場所：須崎くろしお病院（須崎市緑町4番30号）
 お問い合わせ：TEL：0889-52-2880（つどい処）
 0889-43-2121（須崎くろしお病院）
 参加費：無料



当事者・家族の会 入会のご案内

「NPO法人 脳外傷友の会高知 青い空」は、事故や病気で脳を損傷し、その後遺症として高次脳機能障害をもつ当事者および家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識や情報の提供および社会参加を促進するための事業等を行うことで、当事者の日中活動の場を確保し、当事者・家族が安心して生活できる環境を整え、併せて社会の理解を得るための活動を行うことを目的に設立されました。

当会の趣旨、活動にご賛同いただける当事者・ご家族の皆様、市民の皆様、医療・福祉分野で、ご関係のある個人又は団体の皆様、どうか正会員または賛助会員としてご支援いただければありがたく存じます。

- ・入会金：10,000円
- ・正会員年会費：5,000円
- ・賛助会員会費：3,000円

<お問い合わせ>

NPO法人 脳外傷友の会高知 青い空
 〒780-8040 高知県高知市神田462番地7
 TEL/FAX：088-803-4100
 E-mail：npo-aoisora@snow.ocn.ne.jp
 URL：<http://blue-sky-kochi.com/>